

プレビュー版

「社長！どうやら販売店のホームページに掲載されたらしいですよ！」

今であれば、そのことは容易に理解できますが、当時の私は「そんなことで、広がるのか？ もっと他に（原因が）あるだろう。よく調査しなさい！」と言い返していました。

月末になり、まさに信じられない結果が起こったのです。12月度生産分の在庫分、476台はなんと残り10台に満たない数量となり、ほぼ完売してしまったのです。星野金属工業(株)では、当初の計画通り1月生産ロットの500台を私の「延期」という指示を無視した形で生産し、このときすでに在庫としていました。しかし、その1月ロットも2月10日までにほぼ完売状態となっていました。1月末の時点で、私は

「まさに奇跡がおこった！」

と本心から思わざるを得ませんでした。

「これは、夢ではない！真正正銘の奇跡なのだ・・・」

帰宅しても興奮して寝付けない状態が続きました。

「ああ、夢なら覚めないで欲しい・・・」

私はいつまでもこの余韻に浸っていたと思っていました。

この「奇跡」の要因こそ、私が使いこなすことを目標にしていたインターネットでした。これこそインターネットの可能性を証明する出来事だと私は思いました。この「奇跡」の経緯は次の通りです。12月になんとか数台を引き取ってくれた販売店が、ホームページを持っていた。当時はまだ、ウェブページが書ける人は東京でも稀有であつたらしく、パソコン関係の販売店でもホームページをなかなかもてなかった。その販売店は業界に先駆けてホームページを開設していたのです。そのパソコン好きの店長さんが、（アルミのパソコンケースは）奇麗だからホームページに載せるように、と指示をだしてくれて、年明け10日ごろにアップロードされたことがきっかけだったようです。その後、2販売店が追従してホームページに載せたことで、火が点いたとのことでした。私も、当時嬉しくて自社製品が掲載されたそのホームページを毎日のように閲覧していました。ほどなくしてネット掲示板なるもので話題になり始めました。

「こんなに綺麗なケース見たこと無し」

「欲しい・・・でも恐ろしく高価」

「軽そう」

「これなら（軽いから）持ち帰りOK」

等々、実に様々なパソコンファンからの書き込みが寄せられていました。

「これが、インターネットなんだ・・・」

あの時、1996年に初めてインターネットに接続した瞬間を思い出しました。

「これは世界が変わるぞー！」

まさにその予感を裏付けたのです。ソルダム株式会社を設立して、ドメインを取得し、サーバーを立ち上げ幼稚なホームページを開設したものの、過度な期待はしていませんでした。しかし、インターネットは確実に世界を、社会を変えうる存在であるに違いない・・・。私はこのとき、そう確信したのでした。

1999年は、文字通り「WINDY」という自作パソコンブランドが業界に浸透してゆく年となりました。私、そしてWINDYというブランドにとってはまさに「奇跡」が訪れた1月、そして2月入ると夢中で第二の製品開発へと取り掛かりました。自作パソコンの業界は、秋葉原の中小電気店が、従来の不況から脱出する一大転機として自作パソコンビジネスを捕らえたことから拡大始めました。1999年は、電気パーツの専門店や家電製品店が林立し、マニア達が集まっていた規模の小さな業界から、Windowsによって巻き起こされた世界的なパソコン普及時代のなかで、一躍注目を集め、そして急激に膨張を開始した年となりました。従来、マニアによって支えられていた狭いけれど、深い「秋葉原文化」が、一般市民から注目され次第に日本社会から認知されてゆくきっかけとなったわけです。そして、急激に拡大したインターネット文化と重なり合ったことが、膨張に拍車をかける結果となりました。私は、これらの現象を予期できたわけでもなく、また意図した戦略を駆使したわけでもありません。しかし、些細な（しかし私にとっては大きな）きっかけでCPUクーラーの開発を始めた瞬間から、自然にこの場所へ導かれたような思いがありました。